

第28回岩手県勤労者美術展 第13回親子ふれあい写真展

開催期間 2009年11月19日(木)～22日(日) 於：盛岡市民文化ホール・展示ホール

<<絵画の部>> 出展数 49点 審査員：及川 久氏

総 評

具象作品には描写力の差があり、描く物がはっきりしていないし、描けていないものが多い。抽象作品数が少なかったが、頑張っている様子がうかがわれる。更なる研究に期待します。

岩手県知事賞



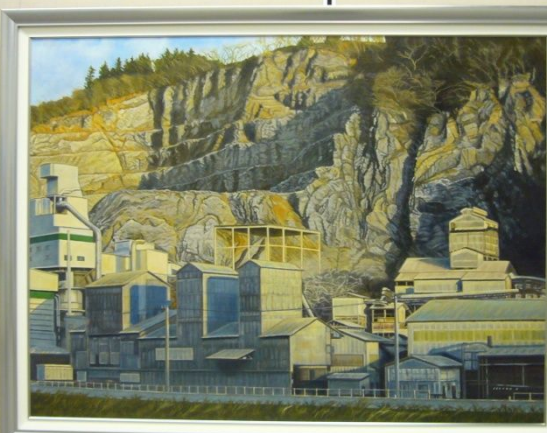
作品名『桜の頃』

すずき つや子 氏 (盛岡市)

桜の古木の力強さに対し、遠景と草原のやわらかさ風を感じさせる。

また、桜の花のとらえ方・描写が非常に良く表現されている。

優 秀 賞

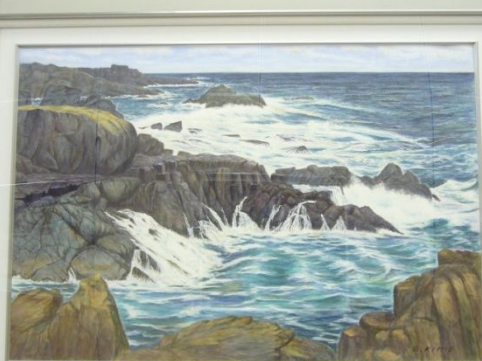


作品名『石灰工場夕景』

つじ せい いち 氏 (奥州市)

石灰工場が堅実な描写力によって描かれており、時間と光によって、より一層画情を深めている。

奨 励 賞



作品名『侍石を望む』

さ さ き きみえ 氏 (八幡平市)

海・波の「動」と悠久的に変化しない岩場の「静」のおりなす自然美を堅実な描写によってその画情を一層高めている。

奨励賞



作品名『思考空間－「青」』

さとう えいこ
佐藤 英子 氏（奥州市）

形態・配色、そしてそれぞれの大小のバランスが良く、
物語のストーリーや場面が浮かぶ良い作品。

佳作



作品名『冬の詩』

あべ みつこ
阿部 實子 氏（盛岡市）

朝の光のやさらかさと雪の原野の情景を林の影によって
良く表現されている。
色も良い。



そまうり
作品名『杣売と旅法師と下人のものがたり』

あさぬま まさお
浅沼 正夫 氏（滝沢村）

映画の一場面を思わせる朽ちた物と背景の色の組み合わせが的確に表出されている。



作品名『幻の氷像』

なつ い
夏井 ふみ 氏（久慈市）

擬人化された氷柱ではあるが、そこに冷と暖があり、そ
して、うごめく音が、語らいが聞こえてくる作品。

＜＜写真・親子ふれあい写真の部＞＞

出展数 92点（写真の部77点・親子ふれあい写真15点） 審査員：小川 文男 氏

総 評

スナップショットが少なく残念だった。ネイチャーフォトをスナップのように表現できることは、本物のカメラマンである。もっと生命力溢れたスナップが欲しい。色調・構成ともに良くなっている。

岩手県知事賞



作品名『翔 舞』

おぼら じゅんじ
小原 順次 氏（花巻市）

キジの牡の羽ばたきのブレた写真は多く見るが、冠の如く立ち上ったさまは見事である。
見る者を夢の世界に誘い込む佳作である。

優 秀 賞



作品名『夜明けの湿原』

うわの みちぞう
上野 通三 氏（滝沢村）

暗い夜がしらじらと明けて、太陽の光に目覚めていく水芭蕉の姿が生命の誕生のように輝いている。

奨 励 賞



作品名『空と大地の競演』

くずまき のりお
葛巻 紀男 氏（花巻市）

表現意図と技術力とがマッチした幻想の世界。
光の線が加不良なく描かれた。

奨励賞



作品名『蝶 飛天舞』

かつら みつる
桂 満 氏（盛岡市）

この写真の成功は、背景処理につきる。

暗めの色調もよく、愛を舞う蝶を明解に写し止めた。

テクニックが光る。

佳作



作品名『ママ、じょうずでしょ！』〈親子ふれあい写真〉

おぼら せいこ
小原 征子 氏（花巻市）

カメラポジションが大胆で、子どもの笑顔と、かけ寄る足の動きが絶妙のスナップショットである。

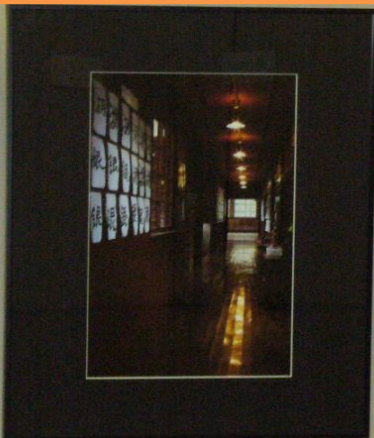


作品名『大空へ翔け！！』〈親子ふれあい写真〉

ちだ ひさし
千田 久 氏（奥州市）

大空に舞う鯉のぼり。

一瞬、親の手をはなれた子どもはまるで鯉のような姿態で舞い上がった。



作品名『郷 愁』

ふくもりた ひろし
福盛田 弘 氏（花巻市）

誰でも心にささったトゲがある。

時折、疼く心のトゲが光景として表現されている。


第28回岩手県勤労者美術展 第13回親子ふれあい写真展
開催期間 2009年11月19日(木)～22日(日) 於：盛岡市民文化ホール・展示ホール

<<書道の部>>

出展数 14点 審査員：吉田 和裕(晨風)氏

総 評	何より書を楽しんで書かれている様子がかいま見られ、これが最も大切なことだと思う。作品の大きさは書壇の流れの2×8尺のものから、半切、小品まであり、これにさらに作品数が増えたとともにいろいろな表現の作品が見られると思う。まず、小作品でも発表する気持ちでさらにたくさんの出品を期待したい。
-----	--


知 事 賞



「管納詩」
川下 洋美<子鳳>氏
(紫波町)

運筆にリズム感があり、加工紙を効果的に使って、華やかさを出している。
運腕大きく規模の大きい秀作。

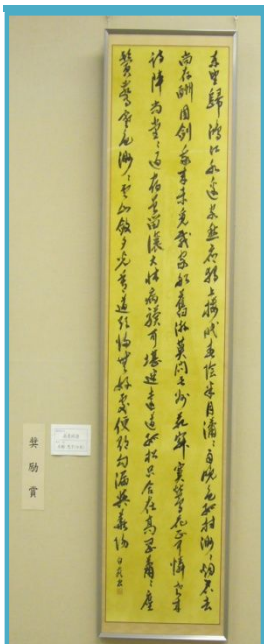
優 秀 賞



「李獻甫の詩」
古舘 武彦<雪林>氏
(一戸町)

難しい加工紙を用い、特に4行目のリズム感が素晴らしい。
作品の汚れが残念。
墨ののりが課題と思われる。


奨 励 賞



「高青邱詩」
高橋 恵子<白萩>氏
(盛岡市)

色合いが墨とよく調和し、全体のおさまりもよい。
一文字一文字をしっかりと丁寧に運筆している。

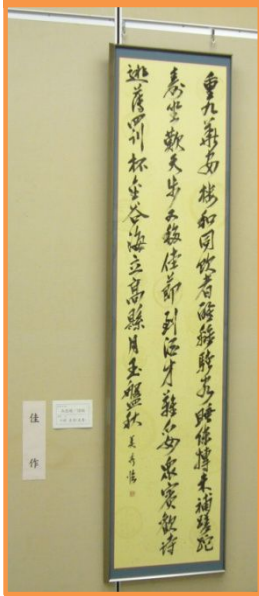
奨 励 賞



「楊億の句」
古舘 武彦<雪林>氏
(一戸町)

半切にピシッとまとめられた作。
やや下方が詰まった感があるが、潤濁、筆勢など素晴らしい。

佳 作

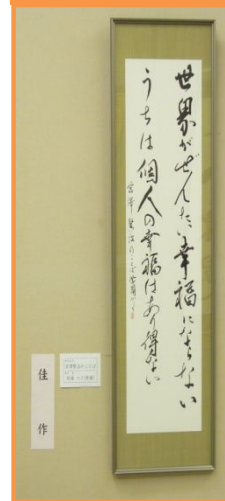


「呉昌碩／詩稿」

川村 美雪〈美秀〉氏
(盛岡市)

呉昌碩の臨書。
骨格の強さをよく見て書かれている。
墨量がもう少しあれば流動感がでてくると思う。

佳 作



「宮澤賢治のことば」

佐藤 エイ〈紫園〉氏
(岩手町)

漢字・かなの調和に配慮しながら自然な流れで表現している。
細いすどい線がこぎみよく、明るさを表現している。

佳 作



「金文名句 松影和風」

千葉 静男〈晴嵐〉氏
(奥州市)

筆力を存分に生かした堂々とした一行書。
落款をさらに研究されると全体がひきしまると思う。